

南阿蘇鉄道沿線地域の公共交通について

南阿蘇鉄道と沿線地域の公共交通の復旧に向けた動きをお知らせします。

【南阿蘇鉄道の災害復旧調査結果】

南阿蘇鉄道高森線は、平成28年4月に発生した熊本地震で、地山全体が大きく動いたことなどにより、トンネルや渓谷に架かる橋りょうが移動・変形するなど鉄道施設に甚大な損傷が発生しました。

被災した構造物を復旧するためには、地盤の動きなどを含む地質・地盤の調査や、大きく損傷したトンネルや橋りょうの詳細な調査・分析など、難易度の高い、技術的に幅広く行う必要があり、被害状況に関する調査が国直轄で実施され、4月16日に結果が公表されました。

■南阿蘇鉄道の復旧調査結果（抜粋） 国土交通省ホームページより			
	被災箇所	設計着手からの復旧見通し（設計・工事期間）	復旧費用（概算）
立野～長陽	第一白川橋りょう	5年程度	約40億円
立野～長陽	扉角山トンネル	3年程度	約20～25億円
立野橋りょう	戸下トンネル	1年程度	約5億円
擁壁の損傷・斜面の崩壊など（18カ所）	立野橋りょう		
軌道の変状など（20カ所）			
合計			約65～70億円

※今後の詳細設計などにより、工期や費用などについて精査される予定。



多数の亀裂が入った「扉角山トンネル」内



選奨土木遺産に認定の第一白川橋りょう
中央部軌道狂い、アーチ中央部鋼材右側へ歪み、橋台基礎斜面が変状

【南阿蘇鉄道再生協議会設立】

南阿蘇鉄道の復旧に当たっては、地域公共交通としての役割・機能、観光圏や広域周遊ルートにおける位置付けなどを踏まえ、当該鉄道路線を将来にわたり復興後の南阿蘇地域の地方創生などに資するものとする必要があります。このため、県と地元自治体、関係団体が一体となり、

地域ぐるみで南阿蘇鉄道の復興を推進することを目的に4月28日、「南阿蘇鉄道再生協議会」の設立総会が県庁で開催されました。

会長には、田嶋徹副知事が就任され、今後、南阿蘇鉄道の全線復旧・復興に向け、鉄道の支援施策および利活用促進施策の検討などについて協議が行われます。



南阿蘇鉄道再生協議会設立総会に出席した関係者の皆さん

地域公共交通網の計画を検討

5月2日、南阿蘇鉄道を含めた地域公共交通網全体の長期的なビジョンの策定に必要な協議を行った場として、「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通活性化協議会」が設立されました。協議会では、設立趣旨の説明や規約制定、会長の選任が行われ、会長には、東海大学の渡辺千賀恵名誉教授、副会長に、吉良村長、草村高森町長が就任しました。

